

絵画と金箔【日本画編】

日本画金箔の種類と特徴

西洋では、金箔は主に荘厳さや崇高さを表す宗教画のシンボルとして用いられますが、日本画では襖や屏風の障壁面に多く使われ、画面の時間と空間を仕切る役割を果たしています。

表は日本画に用いられる金箔の種類を示したものです。日本画の金箔は色目によって、数種類に分類されます。五毛色は最も純度が高い金箔で、柔らかく赤みがあり、青金は銀を3割近く含んでいるため、硬く、青い表情をしています。一号色、二号色、三号色の呼称は、五毛色と青金の純度のランク付けを表し、数字が増えるほど純度が高くなってゆきます。西洋の金箔は80ミリア角ですが、日本の金箔は109〜127ミリア角と大きいのが特徴。「〇〇掛」と言うのは厚みを現す職人言葉で、三枚掛が一般的な0.2〜0.3ミクロンです。

商品としての荷姿は、金箔より大きい合紙に挟んだ「縁付」と、金と合紙が同じサイズの「段切」があります。金箔の取り出しは「縁付」の方が楽ですが、労をいとわなければ「段切」が経済的です。洋画の金箔はノート状になった紙に挟まれています。箔と紙を交互に重ね全体で包装したのが日本画金箔の特徴です。

日本画の金箔の貼り方

日本画で画面に金箔を貼ることを箔押しといいます。箔押しには「あかす方法」と「あかさない方法」があります。あかすとは、紙にわずかな油をつけ金箔を吸い付けることをいいますが、「あかうし」とも呼ばれています。人の脂、すなわち垢を利用して紙に箔を移す(写す)ことかざっていると考えられます。箔押しにはこの他に、箔を小片にして薄く「切金」、糸状の箔を薄く「野毛」、粉状のものを薄く「砂子」がありますが、ここでは一般的な「あかす方法」の箔押しについて紹介します。用

■日本画金箔の種類(一例)

色目	純度%	寸法mm角	厚さの呼称
五毛色	98.9	127	三枚掛
五毛色	98.9	109	三枚掛
一号色	97.6	109	三枚掛
一号色	97.6	109	二枚掛
三号色	95.8	109	二枚掛
四号色	94.4	109	一枚掛
青金	75.5	112	一枚掛
水金	58.0	112	一枚掛

※金の純度を示すK(カラット)表示だと、「五毛色」は23.7K(23 3/4K)に、「青金」は18Kに相当する。

意するものは、木綿布、バレン、箔箸(竹製の巨大なピンセット状の道具)、薄紙、油類(ポマードなど)、ペーパーパウダー、雑誌類などです。

1. 箔をあかす

(1) 箔を押す基底材に、薄いかわ液を乾かしながら3回ほど塗ります。これを捨てにかわを施すと云います。次に箔をあかしますが、その前に指先や箔箸にペーパーパウダーを付け、油気を取っておきます。(2) 木綿布に極薄くポマードを塗り、その上をバレンで撫でて薄く油を付けます。

(3) 金箔上の薄紙を雑誌に置き、(2)のバレンで擦り薄紙に油を付けます。

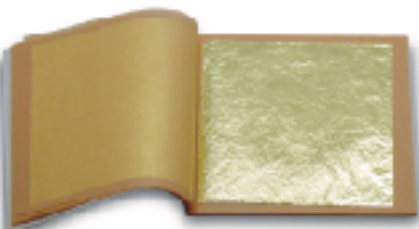
(4) 油の付いた薄紙の油面を箔の面に合わせ、箔箸で薄紙の上を撫で空気を出すと、箔は紙にヒタリと付いてきます。これが「あかし箔」です。

2. 箔押し

(1) 箔を押す箇所(捨てにかわ)の上に、再度薄いかわ液を塗ります。(2) にかわ液が乾かないうちに、あかし箔の角を箔箸でつまみ、対角線の反対側の端を指で持って持ち上げ、押す箇所を持っていき、あかし箔を置きます。

(3) 紙の上から箔箸で撫でると、箔が画面に付きます。箔箸で薄紙を剥いて箔押しの完了です。

金ほどの物質とも反応せず、永遠の輝きが得られることから、古代より富と権力の象徴でした。しかし、不純物が多いとその限りではありません。特に銀を含むと、大気中の硫黄と反応し、硫化物を作って黒くなります。純度の低い箔を使う場合は注意が必要です。また、箔打ち金は箔打ち紙に挟んで延ばします。最近洋紙が使われますが、昔は雁皮紙(和紙)が用いられていました。金を延ばし、その後銀を延ばした使用済みの和紙は、芸妓さんたちが愛用した高級な油取り紙でした。叩かれ叩かれた和紙の表面は滑らかな感触となり、化粧を崩さず、脂をよく吸収するからです。ここ数年、若い女性の間で人気の油取り紙のルーツはここにあります。



ホルベイン金箔(23K、一号色に相当)

※参考資料:「日本画の制作」三谷十糸子著 美術出版社



ホルベイン絵具

www.holbein-works.co.jp

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は...

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)